

和名倉百年の森

wanagura hyakunen no mori

NPO 法人百年の森づくりの会

2012
4.1

23号

水源林の守護神

理事長 内藤 勝久

一昨年の8月に行なった和名倉山仁田小屋尾根での鹿の食害調査で、皮を剥がされたシラビソやウリハダカエダの惨憺たる姿を目の当りにして以来、片時もあのつぶらな瞳の鹿の恐ろしさを忘れることができない。奥秩父が第二の大台ヶ原になるかもしれないという恐怖が日ごとに募る。鹿の食害に関する情報量に比例して危機感が増幅されるからだ。

先日読んだ「水を守りに、森へ」―地下水の持続可能性を求めて(山田 健著 筑摩書房)は、まさに私の懸念を代弁するかのような事例豊富なレポートで、今後の対策を考える上で大変参考になった。サントリ―の社員である著者は、会社の生命線となる地下水を社会貢献とかボランティアではなく、事業として確保することを至上命題として取り組んできただけに、その内容も関係各方面の専門家の知見に裏打ちされた、綿密かつ計画的な品質管理を伴うものであった。

サントリ―の取り組みにくらべれば、当会の鹿の食害防止対策はあくまでも一時しのぎで抜本的な解決には程遠い。ネットを木に巻いたり、植栽地の一面をネットで囲んだだけでは急増する鹿には追いつけない。罾を鹿の通り道に仕掛けたり、丹沢のようにながちりした鋼鉄製のネットを張ることも考えたが、全山に設置することは経済的

にもメンテの面からもまた景観上も問題があり、最後に残された対策はオオカミの導入しかないとの考えに傾いてきた。

昨年レタス王国の信州川上村へ川上犬を見に出かけた。その昔村の猟師がカモシカを捕獲するために、オオカミの仔を育てたと交配をかさねて猟犬に仕立てたという。疾走する写真の姿は犬ではなくオオカミそのものであった。最後のオオカミが確認されたのが1905年。いまから約100年前まではオオカミが奥山でにらみを利かしていたに違いない。

先日寄居町の古老から聞いた話だが、ツツジで有名な岩根神社には昭和のはじめ頃までオオカミに食事を供える風習が続いていたそう。荒川の支流釜伏川の水源林もオオカミが守っていたのだろう。太平洋と日本海の分水嶺をなす奥秩父の山々にはたくさん水源林があるので、当然ながらたくさんのおオオカミが生息していたと推測される。

昨年11月の理事会で、期せずして浅野理事が一般社団法人日本オオカミ協会の会報「フォレスト・コール」と自身が理事長を務める経済倶楽部講演録のコラムに書いた「オオカミ復活」を資料として、オオカミ導入に賛成の立場を明らかにしてからというものの、私もおくれればせながらオオカミに関する本や資料を読み、知見を蓄積した。「捕食

者なき世界(文芸春秋)、「オオカミの護符」(新潮社)、遠野物語、山の人生(岩波文庫)を読んで、昔はオオカミがたくさん生息し、住民からは森林の守護神として崇められていたこと、欧米ではオオカミ導入の成果が上がっていること、導入最大の問題は恐怖心でありこれを払拭するのに時間がかかることなどを学んだ。オオカミは怖いとの先入観を植え付けたグリム童話も併読した。

一般社団法人日本オオカミ協会の役員会に、浅野理事と参加したのは2月半ばのこと、丸山直樹会長他の役員の方々の導入に対する熱意を肌で感じる事ができた。各地での講演の反響はすこぶる良好であるが、国の対応が消極的でなかなか進展していかないのが悩みの種であった。しかし世論を醸成し、それを味方にすれば解決の道も開けると思う。要はどうすれば世論を喚起することができるかということになる。

来る6月3日の鹿の食害に関するシンポジウムには丸山会長を講師兼パネラーにお迎えし、オオカミの復活を演題とした基調講演につづき、日本生態系保護協会会長、埼玉県森林協会会長、埼玉県の担当官らとのパネルディスカッションを通して、水源の森を守るオオカミの導入を世論に訴えていきたいと思う。多くの会員のみなさまの参加を心からお待ちしています。

エコサロン平成23年度冬の公開講座 報告

「森はエネルギーの宝庫・バイオマス」

常務理事 吉田 兼紀



講師：米谷栄二氏

日（土） 5時30分～7時30分。当日の聴講者数は25名であった。

これまでのエコサロン講座は主に農林系の話題を取り上げてきたが、今回第14回講座は技術系の話題を取り上げた。東工大同窓会ベシチャーター団体のひとつである認定NPO法人「蔵前バイオマスエネルギー技術サポートネットワーク」（K-BETS）の事務局長・米谷栄二氏を講師にお招きし、標題の演題でK-BETSの活動状況をお話いただいた。日時は平成23年12月10

K-BETSは機械、電気。建築、土木、化学工学などの専門技術者たちが「化石燃料由来のエネルギーを駆使して企業の営利活動に働いてきた。」という現役を退いて、「その罪滅ぼしに、使いにくいバイオマスを使えるようにしよう。」と立ち上げたNPOで各人の技術を融合してバイオマスの有効活用への新システムと新装置を創出している。また各人の人脈を通じて環境行政への提言・啓発を行っているとのこと。

まず環境行政への提言啓蒙活動についての話があった。京都議定書以降の動きで最近COP17国際会

議で討議されているが、各国の思惑で意見まとまらず具体的な議決できずにあるのが現状。アメリカ、ブラジルのとうもろこしエタノールの大量輸出は由々しき動きだ。一方ヨーロッパのバイオマス利用への取り組みは結構多面的で、日本より進んでいる。日本の現状は行政の一貫性に欠けている点があり危惧している。そこで、制度改革への提言・啓発や有望技術の発掘・育成などを会員の人脈を生かして活動している。例えば環境省元大臣斉藤鉄夫氏への提言もそのひとつ。

次に、ものづくり具体例の話があった。その一つが木寄せ・集材システムおよびその治具で、間伐材の斜面引き降ろし引き上げ作業

時に鎖ループをウインチで牽引するのが特徴である。鎖は柔軟性があり、分岐結合箇所自由度もあり、コンパクトなウインチでも動力伝播が容易である。そのため林間現場の多様な環境でも導入できる対応性に優れ、しかも構成部品が簡素で安価に済むという。実施例としては、飯能の某林業者や某私立大学が所有する林地で試験的に作業している模様を動画をまじえて紹介があった。

もうひとつの装置例は木質チップを燃料とするガス化発電システムである。チップを超高温（1000℃以上）水蒸気でガス化するのが特徴で、運転中にタールが発生せず、エネルギー変換効率が高い発電システムとのこと。超高温水蒸

気式ガス化装置と呼んでいる。実用運転できる装置は試作済みで連続稼働テスト中とのこと。更に改良すべき課題はガス化効率の向上と、装置の小型化である。小型化に関しては4トントラックに搭載できるように鋭意開発中とのこと。これが完成すれば東日本大震災の被災地の現場に車載移動し、現場で発生している木屑を処理しつつ、電気を生むという理想的な使い方が可能で、被災地への寄与は大きい、まさに地産地消だとの期待を語っていた。ちなみに、秩父げんき村のバイオマス発電は高温水蒸気を使わない普通のガス化炉なので稼働続けるとターブルが発生するらしい。

会場から質問が2件あった。一つ目は、この鎖ループのシステムについて木寄せの早さ（作業効率）は？との質問に対し、現場事情で大きく違うが、例えば1本あたり

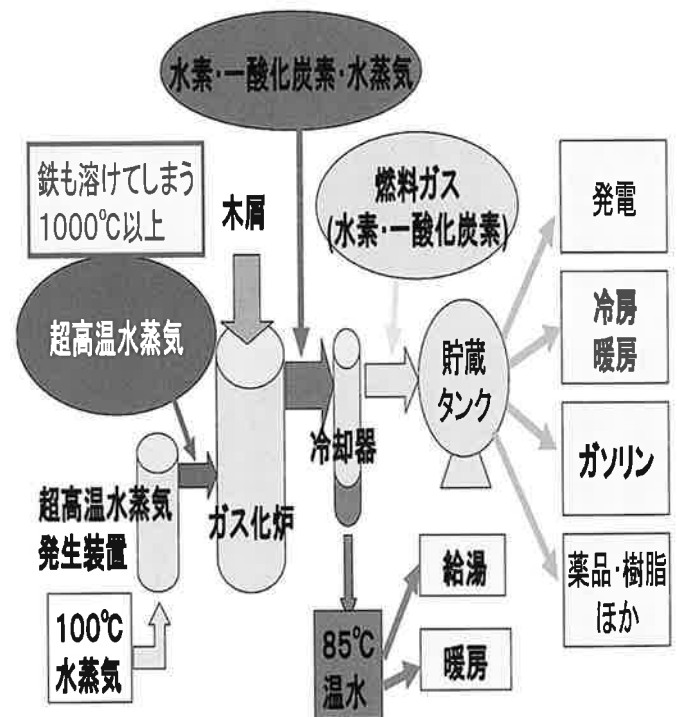


鎖でトレイ上を3本牽引

およそ十数分ぐらいだったかな？との回答であった。二つ目は、超高温水蒸気ガス化発電について高温水蒸気を発生させるために電力を相当食うのでは？との質問に対し、運転初期は電力を食うが、継続運転段階には自発生熱で補うので消費電力は削減されるとの回答であった。

以上、当会にはちよつと毛色の変わった講演であったが、森の力を生かそう、そして次世代に繋げようという意志は当会にも通じるものがあり、共感できた。

超高温水蒸気式ガス化装置



日本のバイオマスのエネルギー利用への取り組み

- ・化石燃料の枯渇とCO2削減には、原子力発電と省エネで対応してきた
- ・京都議定書対応でやっと再生可能エネルギー利用への取り組み始めた但し、太陽光発電に特化
- ・再生可能発電の全量固定価格買取制度やつと立法化
- ・輸送用燃料のエタノール化は進まず
- ・地球温暖化対策は環境省、エネルギーは経産省
バイオマスは農水省(エネルギーには無関心)
- ・削減義務6%の中には日本の森林が吸収する量として3.9%が入れられた
- ・森林を育てる為の森林・林業再生プラン作成(林野庁)
- ・農産物のエネルギー利用促進へバイオマスタウン推進(農水局)
- ・どちらも補助金は出したが問題が多い

2011年度下半期

和名倉山森づくり報告

和名倉山森づくり事業担当 高岡正彦

上半期

4月2・3日仁田小屋開き。

煙突の付け替え。

鹿よけネット修復。

トイレ回廊修復。

仁田小屋の頭偵察。

5月21・22日第28回植林ワーク。

冷温ブナ50本、仁田小屋の

頭の直下植栽。

鹿よけネット修復。

下半期として、11月5・6日

第29回植林ワーク、11月26・27

日小屋じまいを、百年の森づく

りの会の事業として行ないまし

たが、そのほかにも会が関わっ

た和名倉山の活動がありますの

で、それを時系列に報告します。

今年度は、台風の当たり年にな

ってしまいました。特に15号

台風は、長い時間日本列島に留

まった為、雨による土壌の侵食

が激しく、雲取林道の数箇所

で大きな崩落が起きました。夏

終わりに、大滝総合支所に尋ね

ると「三峯神社との分岐から2

km以降は入れない」とのこと

でした。

9月10日埼玉県山岳連盟自然

保護委員会が仁田小屋まで偵察。

情報どおり

土砂崩れがあり、

6kmほど余

計に林道歩き

をしました。

大聖沢を越え

たところが、

一番大きな

土砂崩れ箇

所で、10

0mほど上

部から土砂が流れて出していま



した。

10月22日川越工業高校山岳部

OB会が松葉沢まで偵察。

9月以降に、工事が入ったら

しく、大聖沢の手前（通称ヘリ

ポート）まで、車で入れるよう

になっていました。その先の崩

落箇所は大規模なのでかなり時

間がかかると思っていました。

11月5・6日 第29回植林ワー

ク。

びっくりしたことに、先月あ

った大規模の崩落箇所が片付い

ていました。ものすごい労力だ

ったと思われまます。そして、何

よりその資金がここに投入され

たことに感謝するばかり・・・

ワークは、植林活動を中止し、

すでに荷揚げしてあるネット張

りと、埼玉農林総合研究セン

ター（原田雅人氏）の「ブナの

地域的遺伝分化の調査」をお手

伝いすることにしました。今回

は、いずみ高校山岳部も参加し

ました。天然ブナの幹の太さを

測り、G

PSで位

置を測定し、

さらに葉

を採取して遺伝子分析するもの

でした。最初は、ブナと犬ブナ・

ケヤキとの区別がつかなかった

が、後半は慣れて次から次へと

作業が進められるようになりま

した。またこの調査のによって、

犬ブナ平付近にブナの大木が多

く自生していることが、分かり

ました。

また、久しぶりに松葉沢寄り

の尾根を歩いたところ、下の写

真のような美しい紅葉に出会い



域がこの
ような風
景だった
のだと思
います。



11月11・12日川又〜ヒルメシ
尾根〜和名倉山〜二瀬尾根偵察

川又から

ヒルメシ尾

根の道は東
大が整備し
たのか以前
よりあるき
やすくなっ

ていて藪道

は一切なく

なっています。

下のブナは

標高120

0m付近。

さすが演習林、

自然林が豊かに育っています。

1700mヒルメシ尾根合流

地点は、若い木が多く、ダケカ

ンバが目立ちます。スズタケは

この十年の間にだいぶ元気がな
くなっている、環境が変わって
いるようです。

和名倉山

山頂から二

瀬尾根に向

かうと奥秩

父特有の苔

むしたシラ

ビン林が現れます。以前に比べ

てシラビソの立ち枯れが目立ち、

日光の差し込みが多くなり今後

の生態系の変化が心配です。

それでも、

下の写真の

ような大き

な切り株を

覆う苔は立

派です。何

とかこの状

態を維持す

るには様々な観点で調査し、で

きることはやっていかなければ

ならないと感じています。

11月26・27日仁田小屋じまい。

ワークからあまり日が経って
いないにもかかわらず、さらに
林道が整備され、仁田小屋沢出
会いまで、土砂は払われ、さら
にローラーで平らにしてありま
した。そこで、このときネット、
ポールなど大量の物資を荷揚げ
しました。



27日には再度、犬ブナ平のブ
ナの大木を觀賞し、さらにその
奥に、森林のないギャップ地が
あり、ここを、次の植林地にす
ることにした。

1月22日 2月26日三峰山・仁

田小屋偵察



今年、積雪が多く、異常低
温も続きました。

上は1月三峯神社駐車場から

の和名倉山。

下は2月の凍結した秩父湖。

秩父湖から真西方面を臨むと
氷結した湖と青い空のコントラ
ストに思わずシャッターを押し
てしまいました。

最後に、和名倉沢にも入って
みました。寒い割には、確実に
春を迎えるように、豊富な水を
湛えていました。

来年度もよろしく!



オオカミ絶滅…今、日本の森林が危ない！

(社)日本オオカミ協会会長 丸山 直樹

今、日本の森林が危ない。元凶は増えすぎたシカの食害である。2011年、シカの全国推定生息頭数は200万頭以上。その増加率は年約20%の複利。放置は禁物である。シカは今、北は知床から南は九州の屋久島まで、森林地帯ならどこにでも生息している。多雪地帯の高山帯や日本海沿岸まで生息するようになった。これを人は温暖化のせいにするが、乱開発や乱獲が横行していなかった明治以前の状態に回復しつつあるだけだ。分布拡大は異常なことではない。生物は増えて広がる。これが種の繁栄と生物多様性発展のための進化的原理なのである。一方で、地球生態系は調和の仕組みも進化させてきた。これを破壊したのは人間である。頂点捕食者の殲滅である。そして、シカの異常な高密度が出現した。

これこそ問題なのである。1平方km当たり50頭以上という信じられない超高密度も稀ではない。その適正密度は、生物多様性が最高になる時の密度と考えられ、2〜3頭であろう。これを超えた地域ではどこでも自然生態系の破壊が発生している。

この増えすぎの原因として温暖化などいろいろ憶測されている。はつきりしているのは、頂点捕食者オオカミの絶滅と最近の狩猟者の高齢化と激減である。オオカミの絶滅は、明治政府の開化政策による駆除と乱獲による。富国強兵だけだった当時の日本の社会が、欧米の先進文化だった自然保護に鈍感だったこともある。そして、狩猟者激減の原因は、その出身母体である山村社会の戦後の衰退にある。シカの増えすぎは完全に人災である。

シカを適正密度にまで下げねばならぬことはもちろんである。食害防止用のシカ侵入防止柵の建設や樹幹のネット巻では役に立たない。これでは被害地域が拡散するだけである。狩猟と駆除の効果が無いことも実証済みである。それに、広大な奥山が各地に存在し、狩猟者は到達できない。同時に、山村の衰退とともに、活力ある狩猟者が絶滅の危機にある。元気のよい狩猟者を輩出する山村社会の再興はもう望むべくもない。

人為では最早自然の管理は出来ない。だが、諦めることはいない。「自然は自然の手に」という原点に立ち返るならば、私たちには切り札がある。それは、自然生態系の骨格を成す食物連鎖の修復である。それには、頂点捕食者オオカミの復活が欠かせない。森を守るものはオオカミなのである。オオカミこそシカを抑制することができる。こ



の実現は技術的には難しくない。実現を阻んでいるのは、オオカミに対する人々の心である。「赤頭巾症候群」と「外来種排斥原理主義」が壁である。これへの特效薬は、オオカミと自然に関する生態学的な知識の理解であり、処方は根気強くあらゆる機会を通じての普及啓発である。きつとわかってもらえる。日本人は誰でも、森の国に生まれた「森の子」なのだから。

ブナの冷蔵苗の仕立て作業報告書

平成23年12月4日 長瀬苗畑



日本大学生物資源科学部の鍛代先生と森林資源学科の齊藤さんから整根実験の結果を聞く。



①掘り起こし
バケットを根の下に直接入れて抜いた。



伸びすぎた根を切る



②整枝、整根
土を落とし、シートに当たりそうな根を切り樹形を崩している枝を剪定。
秋に一度剪定済み。



切り落としの結果



③根を粗包みの後ビニールの大袋で包み込む
苗を5本で1束にし、ビニール袋大袋にすっぽり包み込みポリ縄で縛る。



全員で根切り作業を実践してみる。



④冷蔵庫入込
立て込みは「蒸散した水分がビニール袋に結露して底部に水が溜まると毛根が吸い上げて、又葉から水分を蒸散させる」サイクルを守るため、根を下に芽は上向きにビニール袋を立てかけます。



300本を移植
現在620本残っている。



⑤庫内の様子
200本の苗が立て込み0℃～2℃の温度で保冷され、春待ち状態を保ちます(8月まで)

常務理事 野澤 和雄



2012年 活動スケジュール

活動への参加をご希望の方は、事前に事務局まで御連絡ください。

	総会・理事会	フィールド活動		苗づくり	エコサロン他
		和名倉	長瀬宝登山/太陽寺		
4月	■会報23号発行 ○4/16(月)常務理事会	仁田小屋小屋開き 日時：3/31(土)～4/1(日) 集合：8：30/西武秩父駅		◆長瀬苗畑作業 日時：4/22(日) 集合：9：00/野上駅	
5月	●5/21(月)理事会 場所：教育会館	◆第30回和名倉山ワーク 日時：5/26(土)～27(日) 集合：8：30/西武秩父駅		◆長瀬苗畑作業 日時：5/20(日) 集合：9：00/野上駅	◆第15回春の公開講座 水上演習林が育てたブナを見よう 日時：5月13日(日) 集合：8：00/ 大宮ソニックシティ西側歩道
6月	■第5回通常総会・シンポジウム 日時：6月3日(日)午前11時から 場所：大宮法科大学院 11：00～11：40 第5回通常総会 13：00～16：00 シンポジウム 16：30～18：00懇親会 ○6/17(日)常務理事会		●太陽寺ツル伐り・ ネット巻き作業 日時：6/23(土)～24(日) 集合：8：30/西武秩父駅	◆長瀬苗畑作業 日時：6/17(日) 集合：9：00/野上駅	
7月				◆長瀬苗畑作業 日時：7/8(日) 集合：9：00/野上駅	
8月	○8/19(日)常務理事会 場所：長瀬		●宝登山下草刈り作業 日時：8/19(日) 集合：9：00/宝登山 ロープウェイ駅前広場		
9月					◆百年の森ふれあいコンサート 日時：9月9日(日)午後2時から 場所：皆野文化会館
10月	■会報24号発行 ○10/15(月)常務理事会			◆長瀬苗畑作業 ドングリ拾い 日時：10/14(日) 集合：9：00/西武秩父駅	
11月	●11/19(月)理事会 場所：教育会館	◆第31回和名倉山ワーク 日時：11/3(土)～4(日) 集合：8：30/西武秩父駅 仁田小屋小屋じまい 日時：11/24(土)～25(日) 集合：8：30/西武秩父駅			
12月	○12/17(月)常務理事会			◆長瀬苗畑作業 ブナ苗堀取り、冷温保存 日時：12/9(日) 集合：9：00/野上駅	◆第16回冬の公開講座 日時：12/8(土) 会場：大宮ソニックシティ

和名倉百年の森 第23号 2012年4月1日発行

発行者：NPO法人百年の森づくりの会 内藤勝久

NPO法人百年の森づくりの会 事務局

〒330-0063 さいたま市浦和区高砂三丁目12-9 農林会館地下1階 TEL/FAX：048-831-1469

http://www.100nen-forest.org e-mail: info@100nen-forest.org